

### ふれあい運動会、その先へ

副校長 安田 明子

9月25日のふれあい運動会には、保護者の皆様、学校運営協議会委員の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。また、役員として仕事に携わったり、準備・後片付けを手伝ったりしてくださったPTAの皆様、おかげさまでスムーズな進行ができました。心から御礼申し上げます。

私は、臨川小学校のふれあい運動会を初めて経験させていただきました。そこで様々な人の「心」に触れ、多くのことを学ぶことができました。

まずは23日夜、降雨による校庭の状況と当日の天気予報を鑑み、24日実施の延期を決定しました。休日の夜に行事の延期という残念なお知らせをしたにもかかわらず、連絡をした私にかけられたのは「ご連絡ありがとうございます。」「遅くまでお疲れ様です。」「お体に気を付けて。」等、温かい労いの言葉ばかりでした。非常時にこそ人間の心の真価が問われるといいます。その一端を学びました。

さて、日が改まった25日は、台風一過の晴天となりました。登校する子供たち、準備をする教職員、お手伝いの保護者の方々の表情は、イベント前の緊張感もありながら、皆、楽しそうでした。校庭は、運動会の開催を喜んでいる皆の心に包まれて光っているように感じられました。

開会した運動会では、子供たちの頑張る心がたくさん見られました。応援団長の凛々しい姿、かわいらしい1年生の代表の言葉、元気いっぱいに発表されたスローガン「勝利へ走れ 最後（ゴールまで）」。その後の各学年の競技では、これまでに積み重ねた練習の成果を発揮し、子供たちが輝く瞬間に感動しました。特に6年生の団体競技は、大きな掛け声をかけ、チーム一丸となつての競技が迫力満点でした。私の近くにいた5年生からは「かっこいい。」「来年これやりたい。」とのつぶやきが聞こえ、心の動きが感じられました。

高学年は係活動にも活躍しました。皆が見やすい掲示物を作ること、大きな声で応援を盛り上げること、素早く用具の準備をすること、得点を数え責任をもって計算すること、勝敗の決断を行うこと、競技進行の様子を見て的確なアナウンスをすること等々。自分で考え工夫して、さらに友達と協力して運動会の運営を支える中で、育った心がたくさんあったことと思います。

保護者の皆様、学校運営協議会委員の皆様が、終始笑顔で応援してくださったことも印象的でした。競技・競走の結果を評価するだけでなく、子供たちの取り組みの過程を想像されていた心がかがわれました。子供たちがこの運動会への練習を通して、何を感じ考えてきたか、どう成長したか、そしてこの機会にどんな心の糧を得たかをみとっていただけたと確信いたします。

そして終了後、多くの人が交わす言葉が「無事にできてよかったね。」、皆安心した面持ちでした。

現在、子供たちは大きな行事を終え、落ち着いた学校生活を送っています。秋は何事にも集中して取り組める好季節です。秋季休業日やスポーツの日も控えています。運動会で経験した楽しさや感動をもとに、運動に親しむ機会がもてるとよいとおもいます。

学習指導要領の体育の目標には「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」とあります。今回のふれあい運動会での経験が、子供たちの今後の長い人生における、豊かなスポーツライフの素地となったならば、運営に携わった者として幸甚に存じます。